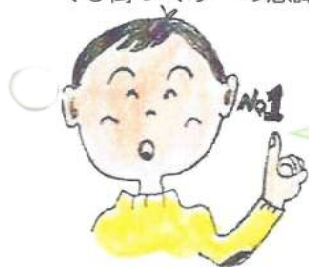
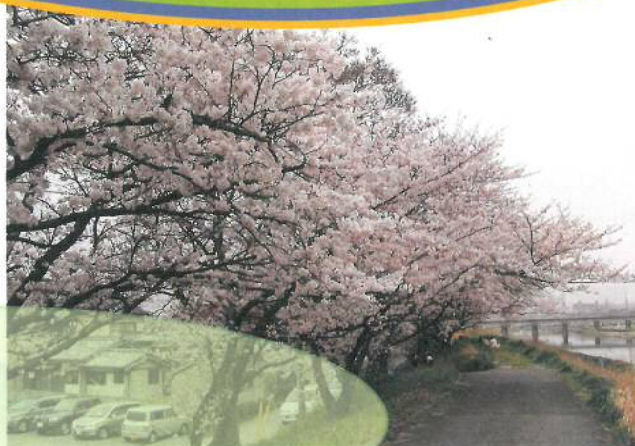


『わがまち 海蔵』

住みよいまちづくりを目指して…

わがまち海蔵の魅力を探りました。そしてこの先さらに住みよいまちづくりに必要なことは何かを考えました。そのために私たちひとりひとりに出来ることは…。

10月24日海蔵地区運動会でのアンケートから聞こえてくる街づくりへの意識やいかに。



わが街一番の自慢は！

- 1 桜堤防…やっぱりね！
- 2 万古焼…地名度は抜群！
- 3 利便性…近鉄高架事業も進行中、中心部へ徒歩移動圏

まちづくりに必要な事とは

皆さんの回答から、だんとつに目立ったのは「コミュニケーション」でした。

住みよいまちづくりに一番必要なのはハード面の整備ではなく「人とひととのつながりが一番」という回答の多いこの地区は、「なんだかあたたかいなあ！」と自画自讃したい思いです。この先、地域を守り、この地で生活するためには『人とひととのつながり』『相互の助け合い』がなにより大切であり、すみよいまちづくりにつながると多くの方が感じていました。海蔵地区には人との繋がり、関わりを求める人が多いなんて、とても嬉しくなりました。おもわず「ここに住んでて良かった!!」と、ひとりつぶやいてしまいました。

個人主義重視で人との関わりを避ける傾向の今日『人ととのつながりをみなおそう！おおいに関わろう！』をモットーに地域活動を通じて理想のまちづくりで、出来る事がいっぱいありそうですね。何故なら海蔵地区はその条件がすでに整備されているからです。

羽津地区生活バスの紹介… 「NPO法人生活バスよっかいち」 のとりくみ

平成十四年、路線バスの廃止をきっかけに高齢者などの移動手段を確保するため、地域住民が発意して協議を重ね、NPO法人が事業主体になり利用者からの運賃収入のほか、地域企業の協賛や、市の補助金を得て路線バスを自主運営しています。

郊外の都市化によりモータリゼーションが進み、路線バスの利用が激減し、廃止され、公共交通機関の空白地帯が生まれるようになりました。地域住民約一七〇〇名にアンケートを実施したところ、高齢者を中心に「買い物や通院が不便になる」という声が多数寄せられ、このことが「生活バス」誕生のきっかけになりました。

一般のコミュニティバスは市や町の補助金で運営されていますが、市の補助金以外に運賃や地域の企業からの協賛金という自主財源で実施している事が特徴です。

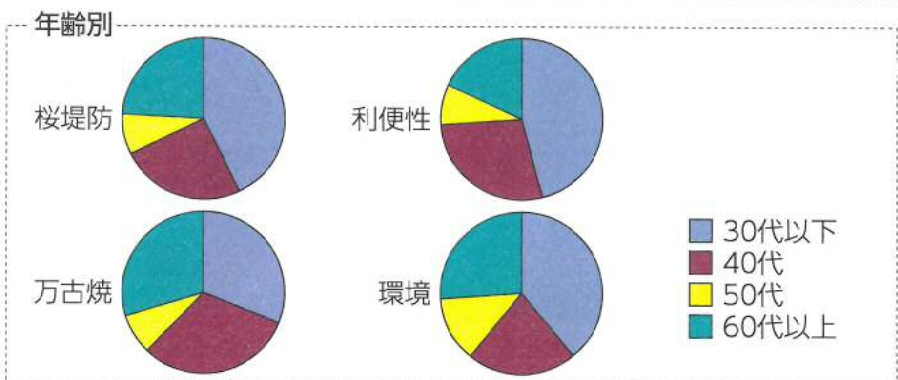
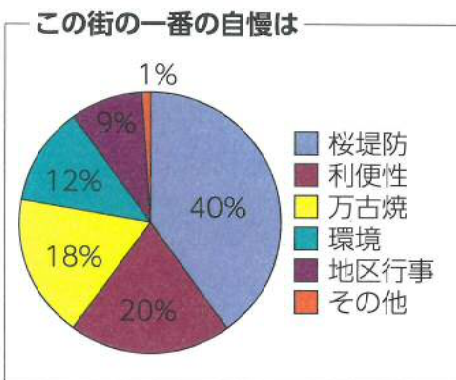
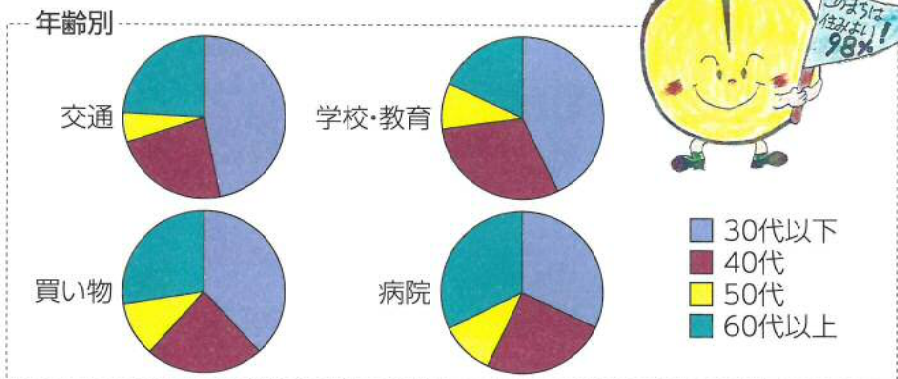
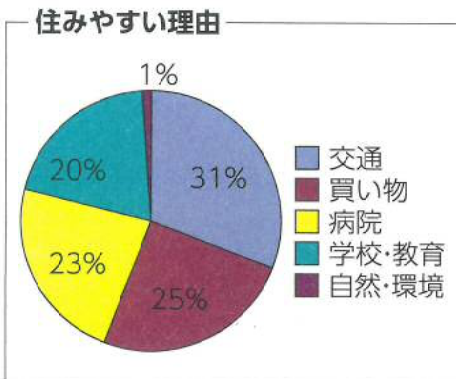


住みよいまちづくり

…海蔵地区運動会でのアンケートより

この地区は住みよいところですか・・・その理由は

アンケートに、ご協力いただいた113名の方のうち、98%の方が住みよいとの回答でした。



	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
この街に希望することは	大型スーパー	住民の自主性 街灯、公園 バリアフリー スーパー 安心、安全、老人福祉 イベントの増加	区画整理事業 公園、遊び場 モラル 現状で良い 環境美化 バリアフリー	安全な街 道路の拡幅	現状維持 環境整備 安全・美しい街 雨水対策 地区行事への関心 集いの場所	
住みよい「まちづくり」に必要なことは	仕事、子育て、 介護がしやすい	公園 コミュニケーション 運動会を毎年実施 住民の関心 歩道、防犯強化	子どもの見守り モラル 夜のパトロール 地区活動 中年のたまり場	地域の人との付き合い 道路の整備	住民参加の行事 人の繋がり 近所の交流 住民が仲良く コミュニケーション	コミュニケーション 地域の協力 住民が仲良く
現在や将来において、 悩み、不安は	年金、介護、仕事、 地震	不景気 児童数の増加 子どもの心理面	老後 バス路線の継続 健康・年金・子育て 公害 モラルの低下	地域の高齢化 高齢者福祉 年金	高齢化 病気・介護・健康 水害・環境問題 狭隘道路 商店の充実	スーパーが遠い

海蔵川の桜



昭和30年頃より、地域の先人達により、堤防に桜苗木が、徐々に植えられていきました。

その後、堤防近隣の人たちにより「保存会」が結成され、保存、維持をされてきました。

現在は、毎年2月頃に、地区内の諸団体が中心になり「桜まつり実行委員会」が結成され、「桜まつり」が維持されています。「桜まつり」期間中の清掃・維持は海蔵地区全町の協力によりおこなわれています、まつり期間終了後も、諸団体により、剪定・管理が行われています。

安全・安心のまちづくり 海蔵地区連合自治会

暮らしに身近な安全の確保と安心のための防犯・防災活動
 海蔵地区連合自治会は、みなさんが安全に安心して暮らせるまちづくりに取り組んでいます。
 ～その主な活動内容について～

主な活動内容として

①安全の確保

- ・市への土木要望等による危険個所の改善
 転落防止柵、カーブミラー等の設置、道路の補修依頼 など

②防犯活動

- ・防犯外灯の設置と維持管理
 地区全体で防犯外灯1,015灯（H.22年5月末現在）を管理
- ・海蔵セフティネット協議会と一体となった防犯活動
 あいさつ運動、交通安全指導、夜間パトロール など

③防災活動

- ・各自治会にて自主防災隊を編成
 平成22年度 地区全体で隊員513名
- ・各ブロック毎に防災訓練の実施
 平成22年度は、放水、初期消火、AED心肺蘇生、炊き出しなどの訓練を実施（地区全体で約650名参加）
- ・防災資機材の整備・管理
 非常食、毛布等の緊急用備蓄品、消火バケツ、パール、鋸、ハンマー、担架等の消火・救出救護用資機材などを整備し、各地の防災倉庫に保管・管理
- ・海蔵小学校、山手中学校防災倉庫の点検（1回/月）
- ・各種マニュアルの整備
 平成22年度は、「海蔵地区 災害発生時の対応マニュアル」作成
 内容：大災害発生時の手順書
 一般住民用・組長用・自治会役員用「対応マニュアル」
 応急対策マニュアル
 避難所運営マニュアルなど

転落防止柵設置の一例



カーブミラー設置の一例



道路陥没部分補修の一例



放水訓練



初期消火訓練



AED心肺蘇生訓練



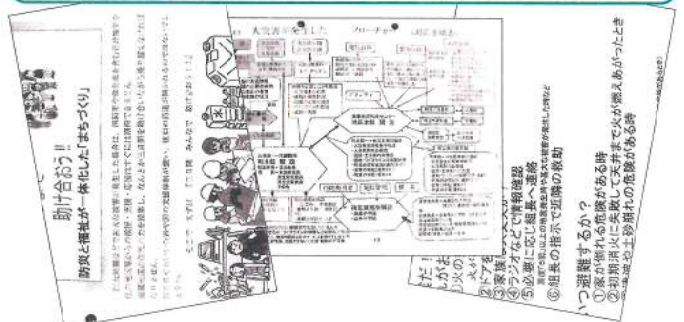
炊き出し訓練



防災資機材の整備・管理の一例



「災害発生時の対応マニュアル」の内容一例



住み続けたくなるまち 海蔵地区をめざして みんなで進めるまちづくり



みなさん今日は。
海蔵地区まちづくり構想策定委員会（以下「まちづくり委員会」）です。
海蔵地区連合自治会において四日市都市計画マスタープラン（以下「市マスタープラン」）に対応した海蔵地区としての取り組みが検討され、まちづくり委員会はその結果を受けて、昨年5月10日に委員23人と連合自治会長を顧問として発足しました。広く地域の皆さんにまちづくり委員会についてご理解とご協力をいただくため、その活動等を紹介させていただきます。

市マスタープランの一環としてのまちづくり構想を策定します

市都市計画マスタープランの役割

- ① 概ね20年後のまちの将来像を示します。
- ② まちづくりのための総合的な整備方針を示します。
- ③ 市が定める都市計画の基本的な方向を示します。
- ④ 市民と市と一緒にまちづくりを考える指針を示します。

市都市計画マスタープランの構成

全体構想

市として市域全体の将来像を示すもので、平成14年7月に策定されましたが、その後の情勢の変化に対応した部分改定が行われます。

地域・地区別構想

「全体構想」を踏まえて地域住民とともに策定することとされています。

「地域・地区別構想」の策定には、市の都市計画まちづくり条例に基づく認定を受けた地区まちづくり構想策定委員会が、地域住民の多様な声を集約、検討して策定した「まちづくり構想」が必要とされ、まちづくり委員会はその認定を受けています。

誰もが、自分の住む地域がより暮らしやすく、安全・安心、そして楽しいまちとなることを願っています。そのような「まちづくりの構想」を策定することが委員会の役割です。

皆さんの声をお寄せください

発足以来、毎月定例的に役員会と委員会を開催し、海蔵地区のまちの様々な現状等について話し合い、昨年10月には実際に地区を回って現状を確認しました。

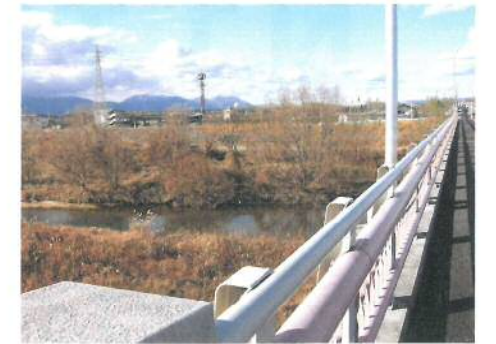
これまでの話し合いを通して「まちづくりのテーマ」を6項目にまとめました。各テーマと中間まとめにおける課題の概要は右のページのとおりです。

まとめの詳細は海蔵地区市民センターにありますのでご覧いただき、皆様のご意見を4月末までに同センターへお寄せください。

まちづくりのテーマと課題（中間まとめ概要）

【課題1】河川の安全性向上と排水対策

- ・海蔵川河川内の樹木繁茂と堤防道路沿いの雑草繁茂
- ・同河川貯水時期の水難
- ・雑木、雑草が繁茂した三滝川新川（分派）
- ・三ツ谷町、万古町、清水町、野田等の排水問題など



雑木・雑草が茂る海蔵川

【課題2】地区内の交通の利便性と安全性の向上

- ・幹線道路整備による通過車両の増大
- ・市道赤堀山城線と阿倉川西富田線の変則交差点
- ・国道1号線や国道365号線等の交差点の右折帯未整備
- ・海蔵川堤防道路や市街地内の狭い道
- ・国道1号線三ツ谷交差点～西阿倉川の狭いバス路線道路
- ・歩道の無い通学路
- ・公共交通利用と阿倉川駅及び周辺の現状など



交通渋滞

【課題3】計画的・合理的な土地利用の促進

- ・市街化調整区域農地の住宅地等への転用による狭隘道路や排水
- ・市街地の工場跡地の住宅化による人口密集と周辺道路の未整備
- ・農業後継者不足や耕作環境が悪化する農地など



整備が望まれる阿倉川駅付近

【課題4】地場産業と歴史を生かした地区の魅力づくり

- ・地場産業の万古焼工場、事業所の魅力を高める
- ・神社や仏閣等の歴史資源の地域財産としての活用など

【課題5】水辺空間と公園・緑地の整備

- ・海蔵川堤防の桜並木の老木化等
- ・菖蒲園付近の堀川のヘドロ堆積、水質悪化
- ・公園や広場の有効活用と管理
- ・垂坂山の荒廃など



老木化が進む海蔵川桜並木

【課題6】安心して暮らし続けられる居住環境の向上

- ・地域福祉、福祉施設、学童保育所等の充実
- ・少ない耐震貯水槽
- ・家屋の密集と狭い道路
- ・空き家とその老朽化など

構想の策定は来年の春をめざします

今後、みなさんの声をお聞きしながら課題やその解決の方向性・方策について検討、協議を進め、来年の春をめざして「海蔵地区まちづくり構想」を策定する予定です。

まちづくりは、行政の取り組みとともに住民と行政との協働や住民同志の協力、そして住民個々の取り組みが必要であり、構想はそのような私たち地域住民の取り組みも含んで策定されます。

NTT社宅跡今昔物語

生まれかわった松ヶ丘には新しいまちづくりの工夫がいっぱい！

シリーズ
あるあるおばちゃん
探検隊



「黒けむりはくつつばしら」、このインパクトある小学校校歌の歌詞にも表されるように、地場産業「万古焼」の我が町も、時代の変遷と共に家並みの様子がどんどん変わりとつあります。

先日じっくりと地区内を見て廻る機会を得ましたが、まさに今浦島のような感覚に襲われた地域がありました。

それは住民が高齢化してきていると聞いていた松ヶ丘にあるNTT社宅の跡です。名称は「ウェリスパーク阿倉川」。

開発計画が持ちあがった当時の自治会長さんと現在の自治会長さんに、色々とお話をお聞きしました。

まず目を奪われたのは、公園の脇に立つ前面がガラス張り、三角屋根の素敵な建物です。何かと思ったら「集会所」、屋根には大きな太陽光パネルが、軒下には雨水を貯めるタンクも設置されています。中はテーブルも椅子も個性的なデザインで、トイレは広く、赤ちゃん用の台が取り付けられています。

テーブル脇の壁側は、一人ずつの小さい机に仕切られそれぞれに蛍光灯が着き、読み書きや、折り紙などの手作業も出来そうでした。

将来的には、他町の人たちにも積極的に利用してもらえるように願っているとのことでした。

隣の公園の砂場では数人のお母さんたちが、子供たちを遊ばせながらおしゃべりを楽しんでいるのが見受けられ、よく利用されているようでした。集会所前のマンホールは災害時用トイレで、いざという時には防災倉庫（これがまた可愛い）にある屋根囲を置けば、簡易トイレの出来上がりというわけです。ベンチはなんと災害時には「かまど」に変身するそうで、その発想に驚きました。公園の地下は急激な増水に対処する調整池になっています。

住宅街は、可愛い一戸建てが建ち並び、敷地内には木々が植えられ、コミュニケーションが取りやすいように、生垣になっています。全部で80戸建てられる予定で、入居者はまだ半分とのことでした。

付近の道路は、この団地の着工とともに、電柱が片側へ寄せられ、側溝にも蓋がされ、狭い道路が悩みの他の町には羨ましいかぎりです。

当初NTTから団地開発の話があった時、街の高齢化に悩み始めていたので、嬉しかったと同時にさまざまな苦労もあったとのことでした。

若い住民の人達と、旧住民の方々との交流を心がけ、コミュニケーションがうまく成り立っていけば、街が若返り、毎日の生活が生き生きとした街になっていくだろうと期待しているとのことでした。



昔

NTT社宅

NTT社宅は、この地に海蔵無線受信所が作られた82年前の昭和3年に遡ります。

当時の受信所は、日本無線電信株式会社の施設として作られ、通信省がこの施設を使ってヨーロッパ向けの通信を行っていました。社史によると、この施設には、局舎と社宅が併設されていて、所長用、幹部用、一般職員用、独身者用社宅などが20戸ほどありました。このうち、独身者用社宅は、クラブハウスを兼ねており、また厚生施設として、テニスコートやプールも設置されていたようです。

国際通信会社ともなれば、海外からの来訪者もあったと思います。国策会社としてひとつのステータスになっていたのではないかと思います。ひと昔前の企業は、社員を大事にすることを重要と考えていたのではないかと、今昔の感が致します。

さて、時代の流れとともに、国際電気通信株式会社、通信省、日本電信電話公社、NTTへと引き継がれてきたのですが、電気通信事業も拡大し、社宅の需要も急激に必要となったため、鉄筋アパートが順次建設されていきました。

昭和30年代後半には、無線受信所も老朽化し、業務の統廃合もあり、建物も取り壊しとなりました。昭和40年代に、その跡地は職員の一戸建て用地として整地され、職員向けに売却されて松ヶ丘団地がスタートしました。

その後、社宅も、老朽化してきたものから順次取り壊して、高層アパートに、改築されていきました。

そのNTT社宅も、厚生施設として設備するといった考え方を改めて、全社的に売却することとなり、80年を超えた長い「NTT社宅」の歴史は、地元の皆様にお馴染みの「無線所」の呼び名とともに遂に幕を閉じました。



昭和3年 海蔵村からヨーロッパに 空の“かけ橋”

昭和のはじめ世界の政治・経済の中心地だったヨーロッパとの通信は外国の回線を借りておりましたが、自前の回線を使って直接通信ができるようにと、当時の海蔵村に無線電信受信所を、また、送信所を愛知県の依佐美村につくり、名古屋無線電信局とつないで昭和3年9月にヨーロッパと我が国唯一の直通通信ができるようになりました。

欧州にある国や商社などの出先機関と短時間で大事な情報交換が可能となり、日本もやっと通信先進国仲間入りすることができました。

開局当日には、小学生のみなさんの旗行列も行われ賑やかに地元をあげて祝いました。

その後、国の方策が変わり外国との通信は、東京と大阪にまとめられ開局以来9年3カ月程で対欧無線受信所としての幕を閉じました。



変わりゆくわが街 (街が便利に、暮らしやすく)

海蔵地区の中で、「近鉄川原町駅周辺総合整備事業の取り組み」がされています。「線路の高架化工事」をご存知ですか？



左は名古屋行きの上り線、
右は四日市行きの下り線で
踏切の幅が広いので時間が
かかります。
気をつけて渡ってください。



現在の川原町駅



以前の川原町駅

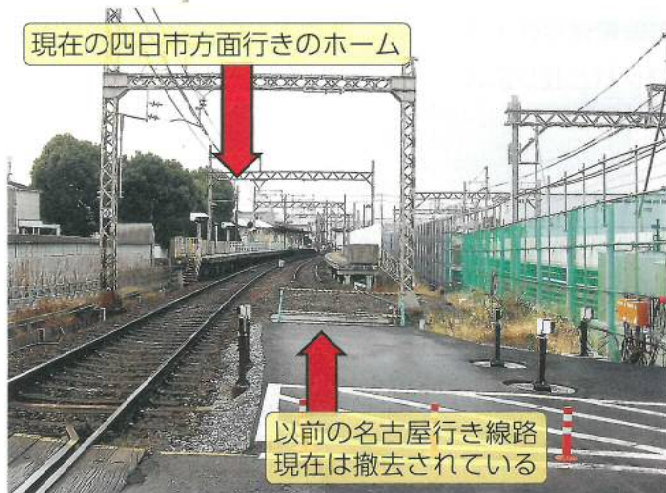


踏切のない「川原町駅の完成予想」

近鉄川原町駅周辺総合整備事業は、「平成19年に事業認可」をされてからは、具体的な工事にかかり、西町・西浦(三滝川堤防南)から海蔵川堤防までの約980mの区間が高架になる工事が進められています。完成は平成26年3月の予定ですが、現在の状況では、約1年位は工事が延びる(平成27年に完成)と言われています。



高架までの仮線用川原町駅ホームの工事



現在の四日市方面行きホーム

以前の名古屋行き線路
現在は撤去されている



現在の名古屋方面行きホームと仮線

踏切が従来の倍(線路が4本)以上ありますので、歩行者や自転車はご注意ください！